

## 美しいものに感動できる 「豊かな感性を育むまちづくり」

恵まれた自然環境や歴史、文化を守るとともに人々の豊かな情操を育み、さまざまな文化活動を支援する都市を目指します。



## 歴史文化 HAPPINESS KUMAMOTO

美しいものに感動できる  
「豊かな感性を育むまちづくり」

### 熊本城

本市は長年培われた歴史と多彩な文化に恵まれ、文化財として189件も国・県・市等の指定を受けています。中でも、歴史都市くまもとの象徴となっているのが熊本城です。

熊本城は加藤清正が築いた約98万平方メートルもの広さを持つ豪壮雄大な城です。その建物の大半は、明治10年の国内最後の内戦である西南戦争の際、薩摩軍総攻撃の直前に火災で焼失してしまいました。昭和35年の天守閣再建を始め、以来市では石垣や櫓の復元に努めてきており、三の丸に移築復原した「旧細川刑部邸」(県指定重要文化財)等当時をしのばせる場所としてさらに今後も旧来の堂々とした姿に戻していくことにしています。





## 史跡・文化財

HAPPINESS KUMAMOTO

美しいものに感動できる  
「生きがいを感じるまちづくり」

史跡・文化財は先人からの贈り物であり、市民共有の財産です。また個性豊かなまちづくり、人情味あふれるまちづくりにも大きな役割を果たすもので、その保存・活用に努めています。

古代から人々の生活の営みが遺跡として、市域内で約455カ所も確認されています。特に注目されているのが、池上町平の「池辺寺跡」（清水原遺跡）と黒髪7丁目の「つつじヶ丘横穴群」です。

池辺寺は平安時代の山岳密教寺院と考えられ、塼敷（レンガの一種）

の建物跡や規則的に並ぶ不思議な石積みが発見されました。（平成9年9月11日に国の指定史跡になりました。）また、つつじヶ丘横穴群は古墳時代後期にかけ面を直接掘りこんで造ったもので祭祀跡がそのまま残されています。

また、熊本は幕末から明治、大正、昭和と時代の大きなうねりの中で、多くの偉大な先哲が活躍してきた地でもあります。市では現在、夏目漱石内坪井旧居や小泉八雲熊本旧居を始めとして、徳富記念館と旧邸（蘇峰・蘆花）、横井小楠記念館と四時軒、

熊本洋学校教師ジェーンズ邸、リデル・ライト両女史記念館、後藤是山記念館そして御馬下の角小屋を一般公開しており、自主企画展の開催など、今後も展示内容等一層充実させ、ふるさとを築いてきた数多くの先哲についてその顕彰に努めていくことにしています。

また、本市には多くの伝統芸能や伝統技術、地域のまつりなどが数多く伝えられていますが、これらの保存継承のために後継者育成などの支援に努めています。



池辺寺跡  
（根本中堂跡）



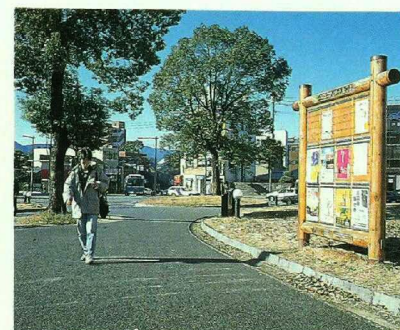
夏目漱石内坪井旧居



上南部神楽



シンボルロード



渡鹿公園コミュニティボード

本市では歴史や自然と調和した個性豊かな都市景観の形成を図るため、さまざまな事業施策に取り組んでいます。

公共空間については、シンボルロード事業や辛島公園リフレッシュ事業など本市の顔となる通りや広場をはじめとして、地域の歴史や文化を生かした景観整備を積極的に行っています。

平成元年10月には、多くの皆さんの参加協力を得て総合的に都市景観

の形成を図るため「熊本市都市景観条例」を制定しました。この条例は、市民、事業者、行政の三者がそれぞれの責務に基づいて創意を発揮すること、景観形成のために地区指定などの制度を活用すること、市民のまちづくり活動を支援することを大きな柱としています。平成3年4月からは「大規模建築物等」の届出制度の運用を始め、地域の景観と調和した事業を行っていただくよう指導を進めています。また、平成7年9月



## 都市景観

HAPPINESS KUMAMOTO

美しいものに感動できる  
「豊かな感性を育むまちづくり」



川尻の町並

には、人々の心象風景として地域の景観を特徴付けている6件の建物を「景観形成建造物」として指定しました。

平成9年3月に都市景観条例を改正し、主要幹線道路の沿道景観の保全、向上を目的とした特定施設届出制度を設け、9月より施行しています。

都市景観の重要な要素の一つである屋外広告物につきましては、中核市への移行に伴い平成8年4月より

事務を開始し、地域特性に合わせて屋外広告物を規制する許可制度や、違法な貼り紙、貼り札などを簡易除去するため毎日パトロールを行っています。

また、市民の方への広報手段の提供を目的としてコミュニティボードを市内64箇所に設置しています。

今後も、都市づくりに関わるさまざまな分野で、熊本らしい個性豊かな都市景観をつくるための取組みを積極的に進めることにしています。



## 市民文化

### HAPPINESS KUMAMOTO

美しいものに感動できる  
「豊かな感性を育むまちづくり」



市民美術展

#### 芸術文化

本市は、人々の豊かな情操を育むため、幅広い芸術団体の創造活動や優れた芸術文化の普及活動等の支援を考えています。

『第2回くまもとお城まつり』では、「草枕」全国俳句大会、全国邦楽コンクール等の行事を通して、薫り高い熊本の文化を全国へ向けて発信しました。また、「熊本市民美術展」の開催、市民会館や総合女性センターなどの自主企画事業の実施には、市民の皆様の積極的な参加を呼びかけ、文化事業を展開しています。

市民の芸術文化活動の支援育成事業としては、文化団体への補助、文化事業の実施に対する助成事業や後援名義事業等を行っています。

また、現在、上通A地区市街地再開発事業で建設する複合ビル内に、

美術文化活動の大きな拠点となるよう、市立美術館の建設計画を進めています。

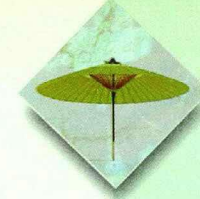
#### 地域文化

市民会館、博物館など地域文化振興の拠点となる市民の身近な文化施設をさらに充実させ、相互の連携を促進するため、施設の整備・拡充を進めています。

又、今日まで守り継がれてきた有形、無形の伝統文化をまちづくり、地域づくりの発展に生かし、活用しようとする自主的活動も積極的に行われています。



1300年の調べ



## 生活文化

### HAPPINESS KUMAMOTO

美しいものに感動できる  
「豊かな感性を育むまちづくり」



植物園内のコスモス畑

今日、価値観やライフスタイルが多様化する中、人々は物的豊かさより心の豊かさを求める傾向にあります。優れた文化に触れ、自ら文化の創造的な活動に参加することで明日への活力を得、生きる手応えを感じます。文化は、普段の暮らしからにじみ出るものであり、一人ひとりの生活が文化そのものです。暮らしの中に豊かな文化を育み、都市魅力の一層の向上につなげるよう、民間・行政がそれぞれの役割に応じた取り組みを行っていく必要があります。

本市では、市民のいきいきとした生活文化活動の育成発展に寄与することを目的に、文化団体の活動支援をはじめ、市政だより、報道機関等各種の広報手段を活用した文化活動情報の提供などに努めています。

#### 動植物園

市民のレクリエーションの場として昭和4年、水前寺にある成趣園東側に動物園を開設しました。

周辺の都市化が進み敷地の拡張が困難になり、昭和44年江津湖のほとりの現在地に移転しました。

その後平成3年4月、都市緑化植物園と一体化して「熊本市動植物園」が誕生し、市民の憩いの場として多くの人々に愛され親しまれています。

約24万㎡の敷地に、132種957点の動物と、1,180種103,000本の植物、さらに大型12種、小型40種の遊戯施設で構成されています。



左から宝宝・盼盼と星星親子

平成5年から取り組んできました金緑猴の日中共同による学術研究の成果も実り、平成9年5月26日に、待望の赤ちゃん（雄）が誕生しました。現在はスクスクと成長し、かわいらしいしぐさが、人気の的になっています。

平成8年6月には、飼育管理センターが完成しました。この施設は、動物の健康管理の徹底に役立てると共に、野生動物の種の保存等についての研修研究機能や、野生動物保護センターの機能も備えています。また、子供達が飼育体験やふ化状況の

観察もできるようになっています。今後も、市民の憩いの場として、楽しみながら学び、生命の大切さ、自然環境の大切さ等を理解できる施設となるよう整備に努めます。



# 行政

HAPPINESS KUMAMOTO  
しあわせを実感できる  
「夢あふれるまちづくり」

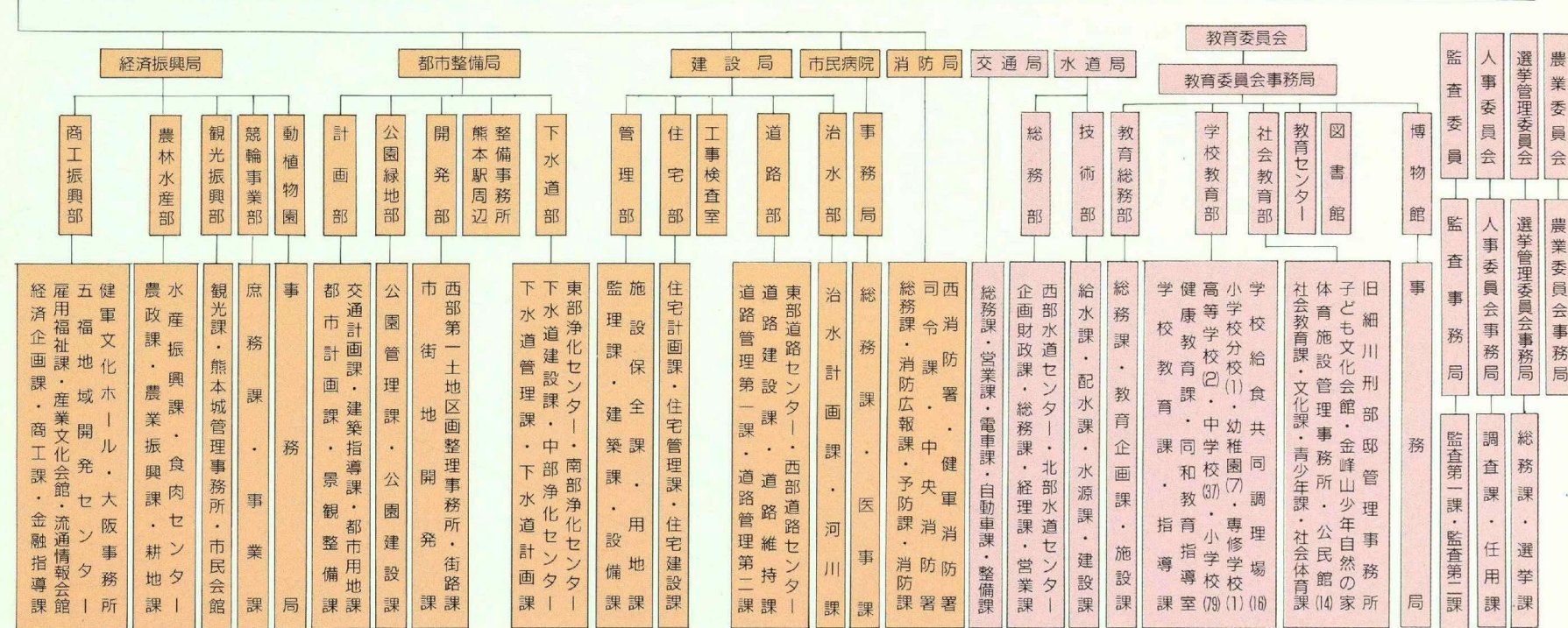
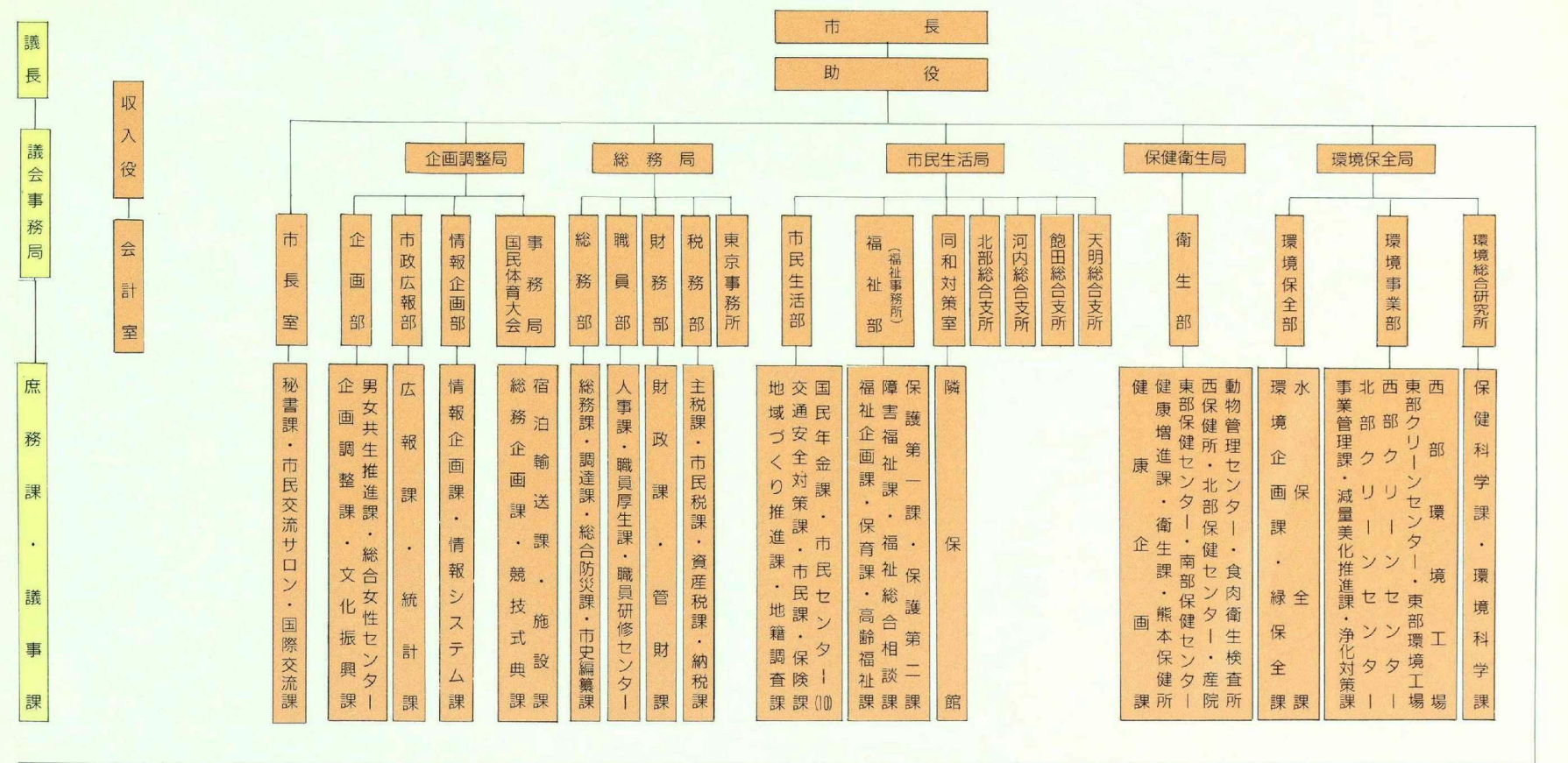


左から岩本洋一収入役、御厨一熊助役、三角保之市長、中村順行助役（旧細川刑部邸「銀之間」）

## ■歴代市長

| 代     | 氏名   | 就任年月日        | 退任年月日        |
|-------|------|--------------|--------------|
| 第1代   | 杉村大八 | 明治22. 5. 6   | 明治26. 7. 9   |
| 2     | 松崎為己 | 〃 26. 9. 15  | 〃 30. 8. 2   |
| 3     | 辛島格  | 〃 30. 9. 13  | 大正 2. 1. 20  |
| 4     | 山田珠一 | 大正 2. 4. 2   | 〃 3. 10. 10  |
| 5     | 依田昌号 | 〃 4. 1. 14   | 〃 6. 9. 3    |
| 6     | 佐柳藤太 | 〃 6. 11. 20  | 〃 10. 11. 19 |
| 7     | 高橋守雄 | 〃 11. 1. 19  | 〃 14. 7. 13  |
| 8     | 辛島知己 | 〃 14. 9. 14  | 昭和 4. 7. 4   |
| 9     | 山田珠一 | 昭和 5. 2. 5   | 〃 9. 4. 17   |
| 10    | 山隈康  | 〃 9. 5. 14   | 〃 17. 5. 13  |
| 11    | 平野龍起 | 〃 17. 6. 25  | 〃 20. 8. 10  |
| 12    | 石坂繁  | 〃 20. 10. 4  | 〃 21. 3. 11  |
| 13・14 | 福田虎亀 | 〃 21. 6. 14  | 〃 23. 2. 9   |
| 15    | 佐藤真男 | 〃 23. 4. 7   | 〃 27. 3. 7   |
| 16    | 林田正治 | 〃 27. 3. 20  | 〃 31. 2. 23  |
| 17・18 | 坂口主税 | 〃 31. 3. 16  | 〃 38. 1. 4   |
| 19・20 | 石坂繁  | 〃 38. 2. 15  | 〃 45. 11. 26 |
| 21~24 | 星子敏雄 | 〃 45. 12. 20 | 〃 61. 12. 6  |
| 25・26 | 田尻靖幹 | 〃 61. 12. 7  | 平成 6. 12. 6  |
| 現市長   | 三角保之 | 平成 6. 12. 7  | 在任中          |

## ■熊本市行政機構図（平成10年4月1日）





# 市議会

HAPPINESS KUMAMOTO

しあわせを実感できる  
「夢あふれるまちづくり」

## ■歴代市議会議員

| 代  | 氏名    | 就任年月日       | 退任年月日          |
|----|-------|-------------|----------------|
| 1  | 有馬源内  | 明治22. 4.26  | 明治24. 1.21     |
| 2  | 興津景章  | 明治24. 1.22  | 明治28. 5.13     |
| 3  | 河原惟親  | 明治28. 5.14  | 明治31. 5.22     |
| 4  | 吉永為己  | 明治31. 5.23  | 明治36. 2. 5     |
| 5  | 山田珠一  | 明治36. 2. 6  | 明治37. 4.30     |
| 6  | 吉永為己  | 明治37. 5.27  | 大正2. 4.30      |
| 7  | 林千八   | 大正2. 5.10   | 明治36. 4.30     |
| 8  | 山隈康   | 明治36. 5.15  | 明治37. 10. 9.30 |
| 9  | 迫源次郎  | 明治37. 10.14 | 明治38. 9.30     |
| 10 | 山隈康   | 明治38. 10.12 | 昭和9. 5. 7      |
| 11 | 平野龍起  | 昭和9. 5. 8   | 昭和17. 6.14     |
| 12 | 佐藤真佐男 | 昭和17. 7.23  | 昭和22. 4.29     |
| 13 | 佐藤真佐男 | 昭和22. 6. 9  | 昭和23. 4. 7     |
| 14 | 大塚勇次郎 | 昭和23. 6. 5  | 昭和26. 4.29     |
| 15 | 大塚勇次郎 | 昭和26. 5.15  | 昭和30. 4.30     |
| 16 | 兼坂安次  | 昭和30. 5.21  | 昭和34. 4. 8     |
| 17 | 打田信行  | 昭和34. 6.12  | 昭和36. 3.24     |
| 18 | 寸坂幸夫  | 昭和36. 3.24  | 昭和38. 4.30     |
| 19 | 阿部次郎  | 昭和38. 5.18  | 昭和40. 3.18     |
| 20 | 井上常八  | 昭和40. 3.18  | 昭和40.12. 7     |
| 21 | 石井辰雄  | 昭和41. 7. 4  | 昭和42. 4.30     |
| 22 | 阿部次郎  | 昭和42. 5.20  | 昭和43. 7. 3     |
| 23 | 坂梨日露  | 昭和43. 7.13  | 昭和45.12. 4     |
| 24 | 黒田弥一郎 | 昭和45.12. 4  | 昭和46. 4.30     |
| 25 | 落水清   | 昭和46. 5.20  | 昭和48. 6. 6     |
| 26 | 古川国雄  | 昭和48. 6. 6  | 昭和50. 4.30     |
| 27 | 紫垣正良  | 昭和50. 5.16  | 昭和52. 6. 4     |
| 28 | 上田堅太  | 昭和52. 6. 4  | 昭和54. 4.30     |
| 29 | 島永慶孝  | 昭和54. 5.14  | 昭和56.12. 8     |
| 30 | 藤山増美  | 昭和56.12. 8  | 昭和58. 4.30     |
| 31 | 宮原光男  | 昭和58. 5.18  | 昭和60. 9. 6     |
| 32 | 大石文夫  | 昭和60. 9. 6  | 昭和61.12.15     |
| 33 | 内田幸吉  | 昭和61.12.15  | 昭和62. 4. 3     |
| 34 | 西村建治  | 昭和62. 5.22  | 昭和63.12.16     |
| 35 | 村上春生  | 昭和63.12.16  | 平成2. 3.26      |
| 36 | 矢野昭三  | 平成2. 3.26   | 昭和3. 4.30      |
| 37 | 嶋田幾雄  | 昭和3. 5.17   | 昭和5.12. 3      |
| 38 | 中村徳生  | 昭和5.12. 3   | 昭和7. 4.30      |
| 39 | 荒木哲美  | 昭和7. 5.19   | 昭和9. 3.27      |
| 40 | 主海傳佐雄 | 昭和9. 3.27   | 在任中            |



主海傳佐雄 議長



中沢 誠 副議長

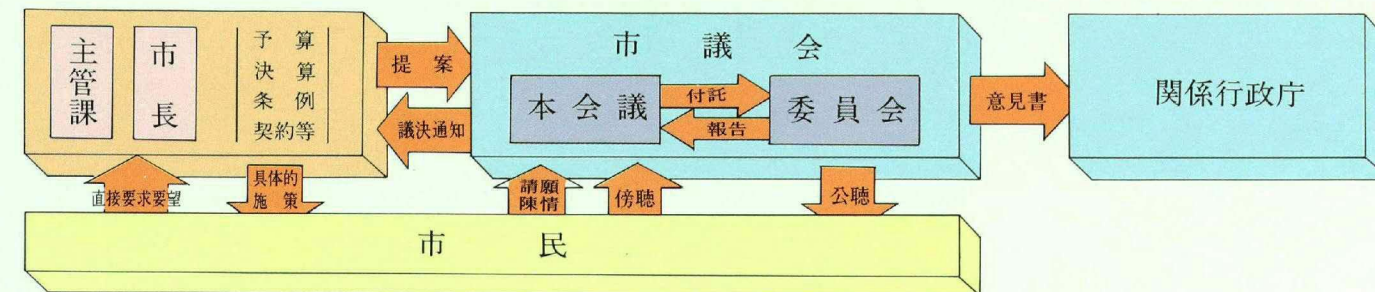
市議会は、市民から選ばれた議員52名（現員51名）で構成されています。会派としては、自由民主党熊本市議団（15名）、平成クラブ（11名）、新風自由民主党市議団（7名）、社会民主クラブ（7名）、公明（7名）、日本共産党（2名）、無所属（1名）、自由クラブ（1名）の8会派が結成されています。

会議は、年4回開かれる定例会と必要がある場合に開かれる臨時会があります。内部の審査機関としては、常任委員会と議会運営委員会及び特別委員会があります。常任委員会は総務・教育民生・保健衛生・経済・建設・公営企業の6委員会に分かれ、所管部門の事務を調査し、議案・陳情などの審査を行います。議会運営委員会は議会の運営に関する調査を行います。特別委員会は必要に応じて議会の議決により設置されますが、付議された事件を審査するもので、現在、交通対策・スポーツ振興対策の各特別委員会があります。

## ■歴代市議会副議長

| 代  | 氏名    | 就任年月日       | 退任年月日      |
|----|-------|-------------|------------|
| 1  | 下田一直  | 明治22. 4.26  | 明治24. 1.21 |
| 2  | 下田耕造  | 明治24. 1.22  | 明治31. 5.22 |
| 3  | 片山基十郎 | 明治31. 5.23  | 明治32. 2. 7 |
| 4  | 林定男   | 明治32. 2. 8  | 明治36. 2. 5 |
| 5  | 出田彦太郎 | 明治36. 2. 6  | 明治36. 2.11 |
| 6  | 園部交雅  | 明治36. 2.12  | 明治36. 5.11 |
| 7  | 板垣正軌  | 明治36. 5.12  | 明治37. 2.12 |
| 8  | 有働格四郎 | 明治37. 2.13  | 明治40.11. 4 |
| 9  | 板垣正軌  | 明治40.11.14  | 明治42. 1.27 |
| 10 | 河田巖   | 明治42. 1.28  | 大正2. 4.30  |
| 11 | 井場熊喜  | 大正2. 5.10   | 明治36. 4.30 |
| 12 | 峽謙斎   | 明治36. 5.15  | 明治37. 3.10 |
| 13 | 藤野乱   | 明治37. 3.11  | 明治38. 9.30 |
| 14 | 水上誠規  | 明治38. 10.14 | 明治39. 9.30 |
| 15 | 河田巖   | 明治39. 10.12 | 昭和4. 9.30  |
| 16 | 平野龍起  | 昭和4.10.12   | 昭和9. 5. 7  |
| 17 | 橋本寿七恵 | 昭和9. 5. 8   | 昭和17. 5.20 |
| 18 | 西郷一恵  | 昭和17. 6.11  | 昭和22. 4.29 |
| 19 | 大塚勇次郎 | 昭和22. 6. 9  | 昭和23. 4. 5 |
| 20 | 加川恒次  | 昭和23. 6. 5  | 昭和26. 4.29 |
| 21 | 北利民   | 昭和26. 5.15  | 昭和28. 9. 5 |
| 22 | 上野勉   | 昭和28. 9.25  | 昭和30. 4.30 |
| 23 | 森光吉   | 昭和30. 5.21  | 昭和32.12.28 |
| 24 | 吉村貞次  | 昭和34. 6.12  | 昭和35. 3.21 |
| 25 | 坂梨日露  | 昭和35. 3.21  | 昭和37. 7. 9 |
| 26 | 吉村貞次  | 昭和37. 7. 9  | 昭和38. 4.30 |
| 27 | 石井辰雄  | 昭和38. 5.18  | 昭和41. 7. 4 |
| 28 | 吉村貞次  | 昭和41. 7. 4  | 昭和42. 4.30 |
| 29 | 佐藤寿雄  | 昭和42. 5.20  | 昭和44. 3.25 |
| 30 | 古川国雄  | 昭和44. 3.25  | 昭和44. 6.28 |
| 31 | 岩尾恵   | 昭和44. 9.13  | 昭和46. 4.30 |
| 32 | 阪本富   | 昭和46. 5.20  | 昭和48. 6. 6 |
| 33 | 荒木昇   | 昭和48. 6. 6  | 昭和50. 4.30 |
| 34 | 藤山増美  | 昭和50. 5.16  | 昭和52. 6. 4 |
| 35 | 矢野昭三  | 昭和52. 6. 4  | 昭和54. 4.30 |
| 36 | 上妻重蔵  | 昭和54. 5.14  | 昭和56.12. 8 |
| 37 | 田尻武男  | 昭和56.12. 8  | 昭和58. 4.30 |
| 38 | 白石正   | 昭和58. 5.18  | 昭和60. 9. 6 |
| 39 | 北口政義  | 昭和60. 9. 6  | 昭和61.12.15 |
| 40 | 吉村潔   | 昭和61.12.15  | 昭和62. 4.30 |
| 41 | 竹本勇   | 昭和62. 5.22  | 昭和63.12.16 |
| 42 | 村上裕人  | 昭和63.12.16  | 平成2. 3.26  |
| 43 | 佐藤公平  | 平成2. 3.26   | 昭和3. 4.30  |
| 44 | 西田純   | 昭和3. 5.17   | 昭和5.12. 3  |
| 45 | 伊形寛治  | 昭和5.12. 3   | 昭和7. 4.30  |
| 46 | 宮原正一  | 昭和7. 5.19   | 昭和9. 3.27  |
| 47 | 中沢誠   | 昭和9. 3.27   | 在任中        |

## ■市議会のしくみ



## ■市議会議員（平成10年4月1日現在）

| 氏名    | 会派 | 氏名   | 会派 |
|-------|----|------|----|
| 主海傳佐雄 | 自民 | 大江政久 | 社民 |
| 中沢誠   | 公明 | 東祐代  | 社民 |
| 坂田誠二  | 自民 | 磯道文  | 公明 |
| 藤山英美  | 平成 | 江藤正行 | 自民 |
| 田中誠一  | 平成 | 荒木哲美 | 自民 |
| 内田三千夫 | 平成 | 伊形寛治 | 自民 |
| 重松孝文  | 共産 | 奥田光弘 | 平成 |
| 小山久子  | 社民 | 鈴木昌彦 | 平成 |
| 中松健児  | 社民 | 宮原正一 | 平成 |
| 鈴木弘   | 公明 | 諸熊文雄 | 新自 |
| 古川泰三  | 自民 | 上村恵一 | 社民 |
| 税所史熙  | 自民 | 西泰史  | 公明 |
| 山内光昭  | 平成 | 亀井省治 | 公明 |
| 下川孝昭  | 平成 | 中村徳生 | 自民 |
| 竹原孝昭  | 新自 | 嶋田幾雄 | 自民 |
| 北口和皇  | 自由 | 竹本武男 | 自民 |
| 佐々木俊和 | 社民 | 田尻武男 | 自民 |
| 田辺正信  | 社民 | 白石正  | 自民 |
| 島田俊六  | 公明 | 矢野昭三 | 自民 |
| 河村寅麿  | 自民 | 島永慶孝 | 自民 |
| 田尻将博  | 平成 | 村山義雄 | 無所 |
| 田尻清輝  | 平成 | 西村建治 | 平成 |
| 牛嶋弘   | 新自 | 大石文夫 | 新自 |
| 岡田健士  | 新自 | 紫垣正良 | 新自 |
| 落水清弘  | 新自 | 西野法久 | 公明 |
| 益田牧子  | 共産 |      |    |

## ■常任・特別委員会（平成10年4月1日現在）

| 名称            | 定数 | 所管事項                                                                |
|---------------|----|---------------------------------------------------------------------|
| 総務委員会         | 9  | 市長室、企画調整局、総務局、会計室、消防局、選挙管理委員会、監査委員、人事委員会の所管に属する事項、他の常任委員会の所管に属しない事項 |
| 教育民生委員会       | 9  | 市民生活局、教育委員会の所管に属する事項                                                |
| 保健衛生委員会       | 8  | 保健衛生局、環境保全局の所管に属する事項                                                |
| 経済委員会         | 9  | 経済振興局、農業委員会の所管に属する事項                                                |
| 建設委員会         | 9  | 都市整備局、建設局の所管に属する事項                                                  |
| 公営企業委員会       | 8  | 水道局、交通局の所管に属する事項                                                    |
| 議会運営委員会       | 13 | 議会運営に関する調査                                                          |
| 特別委員会         |    |                                                                     |
| 交通対策特別委員会     | 14 | 九州新幹線整備並びに鉄道高架化に関する調査                                               |
| スポーツ振興対策特別委員会 | 14 | 国民体育大会およびハンドボール世界選手権大会の推進並びに競技力向上対策に関する調査                           |



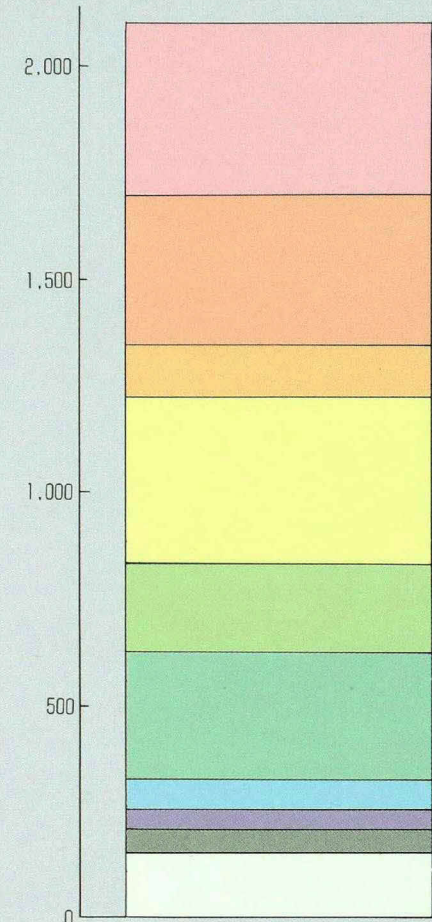


## 財政

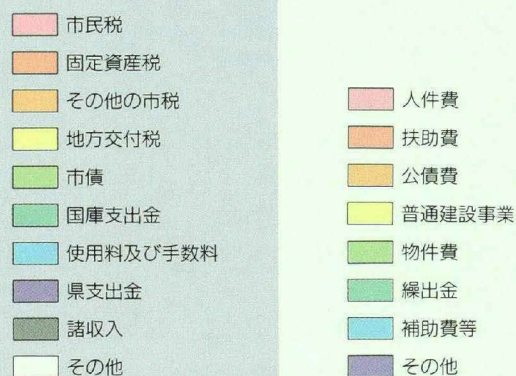
### HAPPINESS KUMAMOTO

しあわせを実感できる  
「夢あふれるまちづくり」

(単位:億円) 歳入

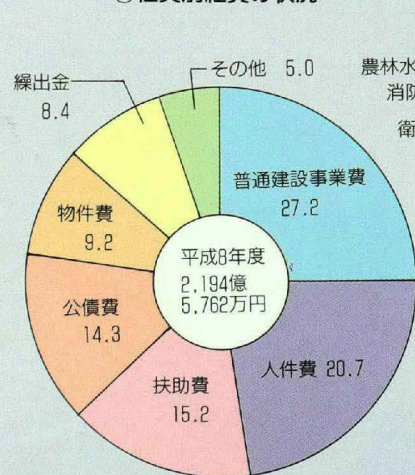


●平成10年度当初予算(一般会計)構成比  
総額 2,092億円

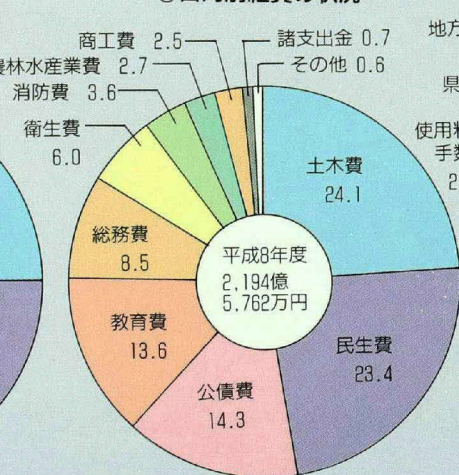


■平成8年度決算(一般会計)の状況

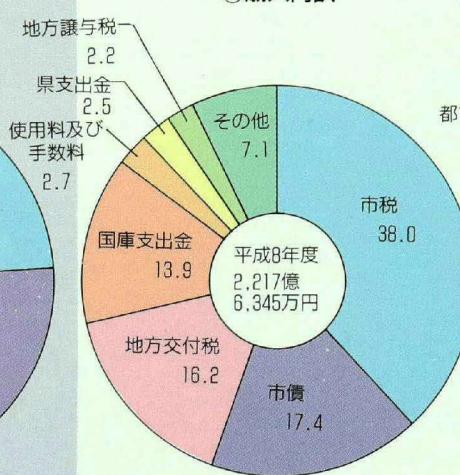
①性質別経費の状況



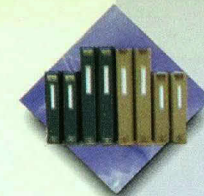
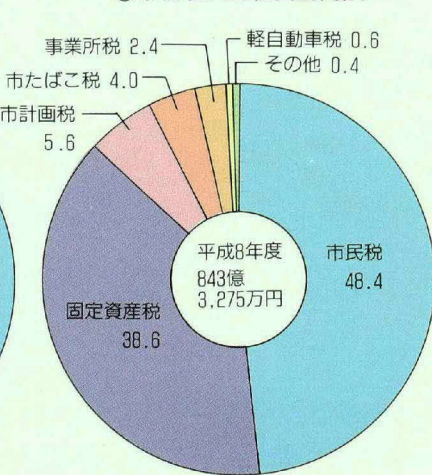
②目的別経費の状況



③歳入内訳



④市税収入の税目別内訳



## 広報・広聴

### HAPPINESS KUMAMOTO

しあわせを実感できる  
「夢あふれるまちづくり」

本市は市民と行政が意志の疎通を積極的に図る双方向の対話を基軸として、市民一人ひとりが「しあわせを実感できるまちづくり」を目指し、積極的な施策の展開を進めています。

このため、広報広聴活動の原点である対話とコミュニケーションを通して市民と行政相互の信頼関係を築き、共通の認識をもって都市づくりができるような土壌づくりに全力で取り組んでいます。

#### 〈広報活動〉

##### 市政だよりなどの刊行物による広報

毎月1日に発行している市勢だよりのほか、弱視者や目の不自由な方などのための拡大版、点字、声の市政だよりを発行しています。また、市の施策方針を紹介した「しあわせ実感くまもとまちがたり」やその具体的な施策を紹介する「ひびき」を発行しています。

##### テレビ、ラジオによる広報

市の施策、行事、施設にかかわるタイムリーな話題などを広報番組としてテレビ・ラジオで放送しています。メディアの特性を生かしながら各局それぞれに特徴をもたせて制作しています。

##### 新聞、雑誌などによる広報

市政の動きや生活に密着した情報などを新聞紙面や雑誌、タウン誌などに掲載しています。

##### 報道対応

報道機関に積極的に市政情報を提

供するなどし、その報道による広報を目的としたパブリシティ活動を行っています。

##### 〈広聴・交流活動〉

まちづくりに関することなど市民のいろいろな意見や要望が市民交流サロンに提案され、市政に反映されています。また、市民交流サロンを気軽に利用してもらうことにより、市民と市、市民と市民の交流の促進を図っています。

##### 市政懇談会

市長が地域に出向き、地域の各層や各種団体との意見交換を行います。

##### 出前市民交流サロン

特色あるまちづくりの推進のため、市民交流サロンの職員が地域に出向き、身近な問題や市政全般について懇談を行います。

##### サロン de トーク

市民と市が対話をととして意思の疎通を図り、よりよい市政を実現するために、市長をはじめ市の幹部職員が市民交流サロンで市民との懇談を行います。

##### 市長への手紙・サロン通信(FAX)・わたしの提言(インターネット通信)

市政への提案や要望、熊本市の将来像などを手紙やFAX、インターネットで受け付けています。

##### 市政に関する市民意識調査

市民の多様化する要望、意見などを統計的に把握するため、アンケートによる調査を行い、将来のまちづ



市政懇談会

くりの参考としています。

##### 市政モニター

市内全79小学校区から計100名の市政モニターを委嘱し、市政に関するいろいろな意見を地域別、年代別など組織的に聴いています。

##### ランチタイム・サロン

市役所をもっと身近に感じてもらうため、昼休みの時間を利用してコンサートを開催等し、憩いのひとときを提供しています。

##### 市民相談

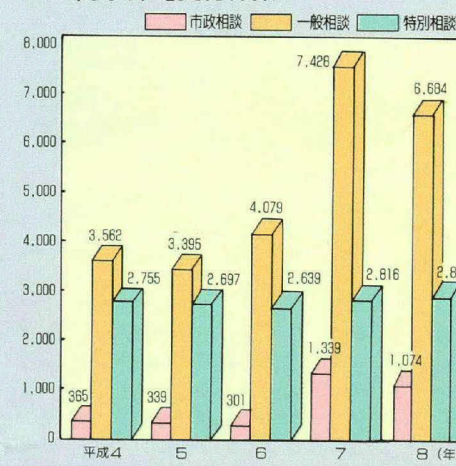
市民の様々な相談に迅速に対応、処理しています。市政に関する市政相談と民事に関する一般相談や弁護士、税理士などの専門相談員による特別相談を行っています。

##### 情報・展示コーナー

市政に関するパンフレット、チラ

シの提供の他、展示コーナーでは、その時々にあった市政の最新の情報を提供しています。また、九州各県や熊本県内の観光パンフレットも提供しています。

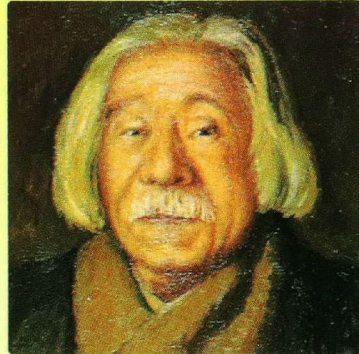
「市民の声」受付件数



徳富蘇峰(本名・猪一郎)氏

(昭和30年1月1日表彰)

近世日本の先覚者。また、世界に稀な優れた思想家であった。熊本在住中は、白川新聞、熊本新聞等を発刊。大江義塾の創始者として子弟の教育に専念し、その啓蒙的影響が大であった。文久3年1月25日生れ、昭和32年11月2日死去、94歳。



高橋守雄氏

(昭和30年1月1日表彰)

第7代熊本市長として、歩兵23連隊の移転・市電・上水道の開設の三大事業を完遂。市の近代化、発展繁栄に尽した。また、教育者として熊本商大、短大学長を歴任、郷土教育の振興育成に努力した。明治16年1月1日生れ、昭和32年5月3日死去、73歳。



細川護立氏

(昭和35年4月1日表彰)

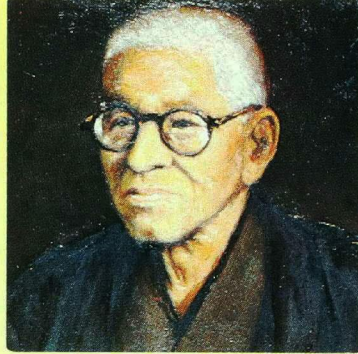
肥後旧藩主細川家16代。有斐学舎舎長、肥後奨学会設立、多額の奨学金を出資して本県出身学徒の育成援護に尽した。国の文化財保護委員会委員として、本市の重要文化財、史跡、名勝等の保存活用に貢献。明治16年10月21日生れ、昭和45年11月18日死去、87歳。



福田令寿氏

(昭和35年4月1日表彰)

医師開業のかたわら、医専五高等で教鞭をとり子女の教育に専念の外、社会文化、社会福祉の要職を歴任、郷土の文化・福祉の向上発展に尽した。清廉・潔白な人格者であった。明治5年12月7日生れ、昭和48年8月7日死去、100歳。



熊本は、昔から「火の国」と呼ばれてきました。大化の改新のあと、奈良時代に入って現出水校区内に国府がおかれ、ここを中心に聚落が形成されるようになりました。このうち、平安・鎌倉時代を経て室町時代になると、菊池一族である出田秀信が、はじめて熊本に千葉城を築き、数代後の城主鹿子木親員が、新しく茶臼山に城を築いて隈本城と呼びました。

豊臣時代に入って秀吉は全国を制覇するや小西行長と加藤清正に肥後を分領させたが、徳川の天下になると、加藤清正は肥後54万石の領主となり、慶長6年から茶臼山に築いていた新城を隈本城から熊本城に改めました。熊本市が町としての体制を整えたのは、このころからです。続いて細川忠利が肥後の領主となり、大政奉還までの二百有余年を細川家が政治を行ってきました。

明治10年西南の役で兵火を受け、市街地の大部分を灰燼に帰したが、直ちに復興し、明治22年には熊本市が誕生しました。大正から昭和にかけては隣接町村を合併しつつ熊本市の基礎を固め、九州における政治・経済・教育の中心地として発展を続けました。その後、昭和20年には大空襲で、終戦後の復興期に

あった28年には未曾有の大水害によって、市街地は壊滅的な被害を受けました。しかし全市民の不断の努力によって、困難を克服した熊本市はその後数次にわたる市域の拡大や近代的都市機能の集積を行い、近時では平成3年2月1日、飽託郡の北部町、河内町、飽田町、天明町と合併し、人口約63万人、面積約266平方キロメートルの熊本市が誕生しました。

この合併を機に、「熊本市基本構想」を策定し、これを基に「熊本市総合計画」を定め新たな一歩を踏み出しました。

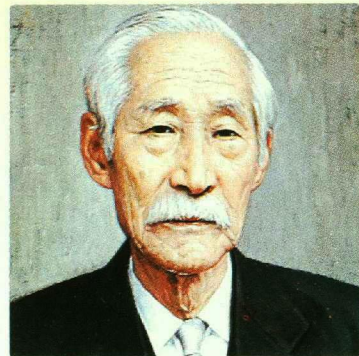
その後、中心部の辛島公園地下駐車場の完成や、熊本港の一部開港など都市基盤整備が着々と進むとともに、国際交流会館や環境総合センターのオープン、そして福井市との姉妹都市締結が行われました。

また、地球規模での平和、及び環境保全の一翼を担うことを目指して「平和都市宣言」や「環境保全都市宣言」がなされました。

さらに、平成8年4月には中核市として、人情味あふれる全ての市民が幸せを実感できるまちづくりの実現を目指した新熊本市がスタートしました。

# 名誉市民

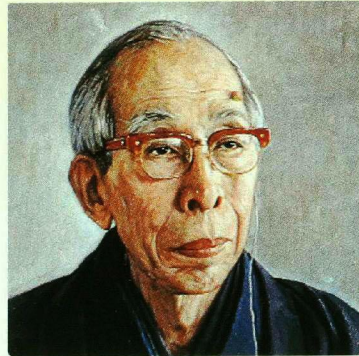
KUMAMOTO'S  
HONORARY  
CITIZENS



宇野哲人氏

(昭和44年10月1日表彰)

東京帝国大学での漢学・中国哲学の教授、東京大学名誉教授、実践女子大学々長、名誉教授等優れた業績は、郷土熊本の文運の興隆に、また、我国の漢学関係の学者者に多大の影響を与えた。明治8年11月15日生れ、昭和49年2月19日死去、98歳。



堅山南風(本名・熊次)氏

(昭和54年10月1日表彰)

横山大観画伯等に師事し、日本画に精進。その多くの作品の上に、肥後の郷土色のにじみ出た芸術の香りがよく生かされている。日本画壇の第一人者といわれ、また、郷土文化の進展に大きく貢献した。明治20年9月12日生れ、昭和55年12月30日死去、93歳。



後藤是山(本名・祐太郎)氏

(昭和54年10月1日表彰)

元九州日日新聞社筆。生来の文人墨客の性格と豊かな文筆で、数多くの郷土史を編さん監修、先人についての研究著述があり熊本の文化の啓蒙に尽した。「明星」同人、句誌「かはがらし」(後の東火)を主宰した。明治19年6月8日生れ、昭和61年6月4日死去、99歳。



中村汀女(本名・破魔)氏

(昭和54年10月1日表彰)

高浜虚子の門下生で、現代女流俳句の第一人者。常にふるさとを愛する心を底流にした「汀女俳句」は、氏の人柄と句にふれる人々に、郷土愛を喚起させ、郷土の文化振興に貢献。「ホトトギス」同人、「風花」を主宰した。明治33年4月11日生れ、昭和63年9月20日死去、88歳。

| 元号 | 年(西暦)     | できごと                     | 元号 | 年(西暦)     | できごと                                                              | 元号 | 年(西暦)                           | できごと                           |
|----|-----------|--------------------------|----|-----------|-------------------------------------------------------------------|----|---------------------------------|--------------------------------|
| 大化 | 2 (646)   | 砂取付近に肥後の国府および兵力4軍団が設置される | 明  | 19 (1886) | 熊本通信管理局（郵務・電務関係）が設置される                                            | 明  | 24 (1891)                       | 門司・熊本間の九州鉄道が開通                 |
|    | 文明        | 1 (1469)                 |    |           |                                                                   |    | 菊池氏の一族、出田秀信千葉城を築く               | 7月                             |
| 明応 | 5 (1496)  | 鹿子木親員、古城に居城を移し、隈本城と称する   | 治  | 20 (1887) | 第五高等学校（九州に1校）が創立される                                               | 明  | 11月                             | ラフカディオ・ヘルン（小泉八雲）五高に着任          |
|    | 慶長        | 6～12 (1601～1607)         |    |           |                                                                   |    | 加藤清正、現在地に熊本城を築き、河川の築堤、井戸の掘削など行う | 25 (1892)                      |
| 寛永 | 9 (1632)  | 細川忠利、肥後藩主となる             | 治  | 22 (1889) | 市町村制が施行され、熊本市が誕生する                                                | 明  | 27 (1894)                       | 第6師団に動員令がくだる                   |
|    | 宝暦        | 4～6 (1754～1756)          |    |           |                                                                   |    | 藩校時習館、医学校再春館、蕃滋園（薬草園）などが創設される   | 7月                             |
| 天明 | 3 (1870)  | 古城に医学校が創設される             | 治  | 4月        | 市域面積5.55km <sup>2</sup> 、人口42,725人、戸数11,797戸、市議会議員数30人、市職員48人であった | 明  | 8月                              | 日清戦争がはじまる                      |
|    | 4 (1871)  | 廃藩置県により熊本県が設置される         |    |           |                                                                   |    | 28 (1895)                       | イギリス人ハンナ・リデル女史が回春病院設立          |
| 治  | 7 (1874)  | 鎮西鎮台（九州および中国西部を管轄）が設置される | 治  | 6月        | 赤十字社熊本支部設立                                                        | 明  | 11月                             | 夏目漱石が五高に着任、熊本を森の都と称賛           |
|    | 10 (1877) | 熊本洋学校が創立される              |    |           |                                                                   |    | 29 (1896)                       | 私立医学校が設立される                    |
|    |           | 九州最初の新聞、白川新聞が発行される       |    |           | 新南千反畑町、現在の白川公園前に市役所が開庁                                            |    | 9月                              | 熊本専売支局が黒髪町に                    |
|    |           | 西南の役、市街地の大半が兵火により焼失した    |    |           | 第五高等中学が古城から黒髪に移転                                                  |    | 31 (1898)                       | 葉煙草専売所設置                       |
|    |           |                          |    |           | 教育勅語発令（井上毅と                                                       |    | 1月                              | フランス人、ジョン・メリー・コール神父が癩救済の待労院を設立 |
|    |           |                          |    |           |                                                                   |    | 10月                             | この年、市立避病院設立（後の白川病院）            |
|    |           |                          |    |           |                                                                   |    |                                 | 第23連隊練兵場が山崎町                   |